



SALVATIONIST

とぎのこえ

2026年標語「火を燃え立たせ続ける」(出エジプト記27章20～21節リビングバイブル)



二〇二六年一月十五日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行

新春号

広報版

2026

January-February

No.2900

2026年 救世軍標語

「火を燃え立たせ続ける」

「…絶えずともしびを燃やし続けなければ
ならない。…これはイスラエルの永遠のお
きてである。」

出エジプト記 27章 20～21節
(リビングバイブル)

ときのこえ SALVATIONIST

新春号 広報版

2026 January – February
NO.2900

2026年テーマソング

テーマソングⅠ「我が^{ともしび}灯のために」

作詞:A.SEVISON

訳詞:RUSSELL STELLWAGON

我が灯のために 油を与えたまえ
夜の明けゆくまで主よ 燃え続けさせたまえ
王なる主イエスに ホサナと歌え
王なる主イエスに ホサナと歌え

テーマソングⅡ「燃やしたまえ」

作詞:中山有太

ともにあつまり 主イエスを求める
われらは受けよう 聖霊の御わざを
燃やしたまえ 燃やしたまえ 聖霊の炎で
イエスの栄光 あらわすため
燃やしたまえ 燃やしたまえ

もくじ

- メッセージ
灯をともし続けなさい—2026年への招き
司令官 大佐 スティーブン・モーリス
……………3
- メッセージ
新しい地平線へ向かって
南太平洋及び東アジア地域万国書記官
中将 ユサク・タンパイ……………4
- 130周年記念全国大会
救世軍バンドレイジング・チャリティー・
コンサート ……………6
大会聖別会、大会昼食会 ……………7
大会賛美集会、ユース・ディナー・パー
ティー ……………8
新兵士の証言、全国士官会 ……………9
- 集会報告
召天者合同記念会
ウィリアム・ハイムズ氏によるバンド・
クリニック ……………10
- 各地のニュース !!
グレイス、静清小隊、京橋小隊
……………11
京都小隊、渋谷小隊、遠軽小隊……………12
大森小隊、杉並小隊、名古屋小隊
……………13
- 救世軍見解表明
社会道德に対する救世軍の立場
第19回「権力の行使」(2)
- 〈連載・第36回〉
神の呼びかけ～神の民となるために～
聖礼典について ……………14
- 救世軍公報 ……………15
- 社会鍋による支援
名古屋小隊
- 各地のニュース !!
月島小隊 ……………15
- 130周年記念全国大会 コラージュ
……………16



@SArmyJP



SArmy_JP



救世軍
The Salvation Army

きりとり

- 『ときのこえ』購読を申し込みます。
(1年分1140円。税込、送料別)
- キリスト教についてもっと知りたいです。

ご氏名 _____

ご住所 _____

表紙の写真：全国大会昼食会で、
タンパイ中将夫妻と、トビー&
アビー・テンプルマン・トゥエ
ルズちゃん

メッセージ

灯をともし続けなさい

—二〇二六年への招き

司令官 大佐 ステイーブン・モーリス

出エジプト記二七章二〇節から二二節で、神はイスラエルの民に命じておられます。

「人々に命じて、ともしび用の純粋なオリブ油を持って来させ、幕屋の中で、絶えずともしびを燃やし続けなければな



らない。アロンとその子らは、この永遠の炎を契約の箱の前にある垂れ幕の外側に置き、昼も夜も消えることがないように、

主の前で番をする。これはイスラエルの永遠のおきてである。」(リビングバイブル)

私たちが二〇二六年に踏み出すにあたり、この聖句が日本軍国の年間標語として選ばれました。これは、忠実・警戒・献身を、時代を超えて思い起こさせるものです。

灯の象徴

古代イスラエルの会見の幕屋において、灯は単なる光源以上のものでした。それは神が民のただ中におられることの象徴でした。炎を絶やさずに保つことは、神の聖なる臨在を認め、聖なる場所が闇に支配されないようにすることでした。灯を守ることは任意ではなく、世代を超えて礼拝のリ

ズムを形づくる永遠のおきてとして命じられていたのです。今日の私たちにとって、

灯は信仰の光を表します。それは祈りの絶え間ない輝きであり、共同体の温かさであり、不確かさに満ちた世界の中であって輝く希望の光です。「灯をともし続ける」とは、困難が訪れたときにも霊的な歩みが消えないよう、意図をもって生き

ることを意味します。**昼も夜も** この聖句は継続性を強調しています。灯は、人の目が疲れ、警戒が弱まる夜の間に燃え続けなければなりませんでした。この点は非常に印象的です。信仰は、人生が管理できるように思える昼の時間だけに必要なものではありません。疑い、悲しみ、待ち続ける夜の時間にも必要なのです。「昼も夜も」灯を燃やし続けるという命令は、夜明けが必ず来

ること、そして神の臨在が失われないことへの信頼を呼びかけています。

二〇二六年のこのテーマは、私たち自身の「夜の季節」を振り返るよう招いています。どこで灯を絶やさないようにすべきでしょうか。関係が緊張しているところかもしれない。分裂に直面している共同体かもしれない。不確かさの中に歩む個人的な旅路かもしれない。灯は、暗闇の中にも神の光が決して消えないことを思い起こさせます。

永遠のおきて 「永遠のおきて」という言葉は継続性を強調します。これは一時的な儀式ではなく、世代を超えてアイデンティティ(自分は何者であるか)を形づくるための実践でした。同じように、二〇二六年のテーマは単なる一年間の標語ではなく、光を次の世代へ、さらにその次の世代へと受け渡すという、私たちの継続的な責任を思い起こさせるものです。

世代を超える忠実さは、この命令の中心にあります。親、メンター、指導者は、次の世代に灯を手渡すよう求められているのです。灯は一人だけによって保たれる

のではなく、礼拝と証しに献身する共同体によって支えられるのです。今日の私たちにとっては、それは次世代のために時間と労力を注ぎ、彼らもまた灯をともし続ける方法を知るようにすることを意味します。

二〇二六年にこのテーマを生きる

では、このテーマを実際にどのように体現できるのでしょうか？

個人の霊性…日々の祈りと聖書を読むことを続け、自らの心の中で信仰の灯を燃やし続けてください。ただ聖書全巻を読み通したことがないのであれば、その目標を達成する助けとなる計画を取り入れてください。共同体での礼拝…日曜日だけではなく、定期的に集まり、互いに励まし合い、共同の光を強めてください。他の人から励ましを受け、また他の人を励ます存在となってください。

奉仕の業…親切、公正、思いやりによってあなたの灯を輝かせてください。 光を必要としている世界に、あなたの灯が届くようにしてください。世界は私たちを「他とは違う者」として見るべきであり、そのことに

よってさらに広く奉仕する機会が開かれるかもしれません。

世代間の指導…自分の信仰の物語(証し)を若者たちと分かち合い、灯が確実に受け継がれるようにしてください。これは私たちの責任であり、次の世代、さら

結びに

二〇二六年が始まるにあたり、出エジプト記二七章二〇節から二二節は私たちを、昼も夜も、世代を超えて灯を燃やし続けるという、揺るぎない献身へと招いています。このテーマは単なる儀式ではなく、粘り強さ、臨在、そして希望について語っています。闇がしばしば圧倒的に見える世界にあつて、この命令は明確です。主の御前で灯をともし続けなさい。

この一年が、夕方から朝まで、そして世代から世代へと、揺るぎない光によって満たされることを願っています。私たちが信徒の群れとして、暗闇の世界に神の光を照らしつつ歩むこの二〇二六年の旅路において、神が豊かに祝福してください。

大会聖別会メッセージ

新しい地平線へ向かって

イザヤ書六章一〜二三節

南太平洋及び東アジア地域万国書記官

中将 ユサク・タン・パイ

恵み深く、憐れみ深い主の御名を崇めます。今日は、大将に代わって、御言葉を取り次がせていただきます。私は「ジャングルから来た中将です」と自己紹介をします。本当にジャングルの中で生まれたからです。インドネシア中部の島で、道をずつと行って、道が尽きたその先から、さらに一日かけて歩いた所が、私の母が私を産んだ村でした。なぜこれを申し上げたかと言いますと、後ほどお話しする証言と、今日のメッセージに関わっているからです。

業を継いで成功し、家族を養うことを強く期待してました。父の頭の中には、そういう「新しい地平線」のイメージが広がっていました。今回の全国大会のテーマは「新しい地平線」です。新しい地平線とは、新しい機会や思い、新しい経験のことです。日本の救世軍としては、この戦いをもっと広がり、新しい兵士が次々と生み出され、人々に大きな感化を与え、喜びが増し加わることを願っています。この国ではクリスチャン人口が1%以下であるという現実があります。そのような状況を超えて、新しい地平線に向かつて進んでいきたいのです。また同時に神は、神の御目からご覧になっておられる、もつと深い意味での「新しい地平線」を、皆さん一人ひとりのためにも用意しておられます。そして神は、あなたがその新しい地平線

聖書の示す「新しい地平線」

では、聖書の観点から見

たとき、「新しい地平線」と

は何を意味するのでしょうか。今、イザヤ書六章を読

んでいただきました。この箇所の中には、私たちが新しい地平線を目指すときに直

面する、いくつもの現実が描かれて

かれています。新しい地平線とは、まず何よりも、聖なる神がご臨在になる場所

です。また新しい地平線という

のは、私たちの人生と深く

関わっています。時に荒れ野

のように感じる人生のただ

中に、神がご臨在になり、私

たちのために道を開いてく

ださるのです。

今回、この大会のテーマと

して示された御言葉は、イ

ザヤ書四三章一九節です。

「見よ、新しいことをわ

たしは行う。今や、それ

は芽生えている。あなた

たちはそれを悟らないの

か。わたしは荒れ野に道を敷き、砂漠に大河を流

れさせる。」

これが、新しい地平線の現実の姿です。さらに、そのビジョンがより進められたかたちで、エゼキエル書とヨハネの黙示録二二章に描かれています。エゼキエル書四七章では、神殿から流れ出る「命の水の川」のビジョンが記されています。その川の流れる水でさえも新鮮な水に変えられます。この川が流れている所では、すべてのものが生き返るのです。黙示録二二章では、天使がヨハネに「命の水の川」を見せます。神と小羊の玉座から、水晶のように輝く川が流れ出て、新しいエルサレムの大通りの中央を流れ下ります。その川の兩岸には「命の木」が生えており、毎月、実を結び、その木の葉は諸国の民の病を癒します。これこそが新しい地平線です。そこには、聖なる神の臨在があり、命の川が流れ、どこへ行っても命をもたらすのです。したがって、新しい地平線に加わる者は皆、神の満ち満ちた臨在の豊かさを経験すること

になります。人生が荒れ野のようであっても、神の臨在の中に入るとき、荒れ野に命の川が流れるという経験をします。それは、困難や問題がなくなるという意味ではありません。むしろ困難のただ中にあっても、そこに神の臨在があり、その神に触れて生きるということです。神の民はそこで、キリストの満ち満ちた豊かさを共に喜び祝うのです。

聖なる神の前に立てない人間と「燃える炭」

新しい地平線は、私たち

にとつてすばらしい良い知らせです。けれども、そこ

には厳しい現実があります。それは、新しい地平線とは、

生ける全能の神が臨在している場所であり、神は聖なる

お方ですから、その聖さのゆえに、誰も本来はこの神

に近づくことができない、ということ

です。今日の箇所

で、「セラフイム——神の御座の周りに仕える天使たち——が、「聖なる、聖なる、聖なる万軍の主」と歌っていたことを読みました。聖書全体を見ても、このように神のご性質が三度繰り返されて強調されているのは、この箇所だけです。もし、「神は

愛である」という性質を強調するのであれば、「神は愛です、愛です、愛です」と三度繰り返すかもしれませ

ん。また「神は平和の神である」と強調するなら、「平和です、平和です、平和です」と書くかもしれませ

ん。しかし、聖書が強調しているのは「神は聖なるお方である」ということです。これが、神の本質的な性質

です。聖なる神に近づくことが許されるのは、聖なる者だけです。天使たちでさえ、神の顔を直接見ることはできず、六つの翼のうち二つの翼で顔を覆い、二つの翼で足を覆っています。神はあまりにも聖なる方であり、その栄光の前に顔を覆わざるを得なかったからです。

救世軍は「聖潔の運動」です。私たちは、神の恵みによつて聖められることができると信じています。私たちは神を礼拝するとき、深い畏れと敬意をもって御前に進み出ます。しかし最も偉大な預言者の一人であるイザヤでさえ、天使たちの声を聞いたとき、「災いだ、私は滅ぼされる」と言うしかありませんでした。ローマの信徒への手紙の中でパウロは、

愛である」という性質を強調するのであれば、「神は愛です、愛です、愛です」と三度繰り返すかもしれませ

ん。また「神は平和の神である」と強調するなら、「平和です、平和です、平和です」と書くかもしれませ

ん。しかし、聖書が強調しているのは「神は聖なるお方である」ということです。これが、神の本質的な性質

です。聖なる神に近づくことが許されるのは、聖なる者だけです。天使たちでさえ、神の顔を直接見ることはできず、六つの翼のうち二つの翼で顔を覆い、二つの翼で足を覆っています。神はあまりにも聖なる方であり、その栄光の前に顔を覆わざるを得なかったからです。

救世軍は「聖潔の運動」です。私たちは、神の恵みによつて聖められることができると信じています。私たちは神を礼拝するとき、深い畏れと敬意をもって御前に進み出ます。しかし最も偉大な預言者の一人であるイザヤでさえ、天使たちの声を聞いたとき、「災いだ、私は滅ぼされる」と言うしかありませんでした。ローマの信徒への手紙の中でパウロは、

愛である」という性質を強調するのであれば、「神は愛です、愛です、愛です」と三度繰り返すかもしれませ

ん。また「神は平和の神である」と強調するなら、「平和です、平和です、平和です」と書くかもしれませ

ん。しかし、聖書が強調しているのは「神は聖なるお方である」ということです。これが、神の本質的な性質

ジャングルで生まれた長男

私はジャングルの中で生まれた長男で、妹が二人、弟が七人います。父は長男の私を家を継ぐようにと、最善の準備をしました。貧しい家でしたが、父は一生懸命働いて、村で有数の金持ちになりました。父は、私

業を継いで成功し、家族を養うことを強く期待してました。父の頭の中には、そういう「新しい地平線」のイメージが広がっていました。今回の全国大会のテーマは「新しい地平線」です。新しい地平線とは、新しい機会や思い、新しい経験のことです。日本の救世軍としては、この戦いをもっと広がり、新しい兵士が次々と生み出され、人々に大きな感化を与え、喜びが増し加わることを願っています。この国ではクリスチャン人口が1%以下であるという現実があります。そのような状況を超えて、新しい地平線に向かつて進んでいきたいのです。また同時に神は、神の御目からご覧になっておられる、もつと深い意味での「新しい地平線」を、皆さん一人ひとりのためにも用意しておられます。そして神は、あなたがその新しい地平線

業を継いで成功し、家族を養うことを強く期待してました。父の頭の中には、そういう「新しい地平線」のイメージが広がっていました。今回の全国大会のテーマは「新しい地平線」です。新しい地平線とは、新しい機会や思い、新しい経験のことです。日本の救世軍としては、この戦いをもっと広がり、新しい兵士が次々と生み出され、人々に大きな感化を与え、喜びが増し加わることを願っています。この国ではクリスチャン人口が1%以下であるという現実があります。そのような状況を超えて、新しい地平線に向かつて進んでいきたいのです。また同時に神は、神の御目からご覧になっておられる、もつと深い意味での「新しい地平線」を、皆さん一人ひとりのためにも用意しておられます。そして神は、あなたがその新しい地平線

業を継いで成功し、家族を養うことを強く期待してました。父の頭の中には、そういう「新しい地平線」のイメージが広がっていました。今回の全国大会のテーマは「新しい地平線」です。新しい地平線とは、新しい機会や思い、新しい経験のことです。日本の救世軍としては、この戦いをもっと広がり、新しい兵士が次々と生み出され、人々に大きな感化を与え、喜びが増し加わることを願っています。この国ではクリスチャン人口が1%以下であるという現実があります。そのような状況を超えて、新しい地平線に向かつて進んでいきたいのです。また同時に神は、神の御目からご覧になっておられる、もつと深い意味での「新しい地平線」を、皆さん一人ひとりのためにも用意しておられます。そして神は、あなたがその新しい地平線

罪の支払う報酬は死である、と語っています。ですから、私たちは自分の力では主のもとに行くことができません。

けれども、ここに福音、良い知らせがあります。神は聖なる方で、私たちは罪人ですが、なお神は私たちと共にありたいと望んでおられるのです。神は、私たちが荒野にとどまり続けることを望んでおられません。「この新しい地平線に入りなさい」と、主は招いておられます。そこには、あなたの人生における新しい機会、新しい祝福が用意されています。

イザヤは、「ああ、私は滅びるばかりだ。私は唇の汚れた者で、唇の汚れた民の中に住んでいるのに、万軍の主なる王をこの目で見たのだから」と言いました。自分にはどうすることもできない——そう感じたそのとき、神の恵みが現れます。天使が祭壇から燃える炭火を取り、それをイザヤの唇に触れさせました。これは、イエス・キリストの十字架において起きた出来事を指し示しています。十字架こそ、神の「燃える炭火」です。十字架の上でイエスは、世界の罪の呪いをその身に引き受け

られました。神は世を愛されたゆえに、その独り子を十字架にお与えになりました。十字架は、神の燃える炭火です。そして、この十字架を通って、私たちは新しい地平線に入ります。

神の愛の広さ・長さ・高さ・深さ

パウロはエフェソの信徒への手紙の中で、「あなたがたの目が開かれるように」と祈り、キリストにおいて示された神の愛の広さ、長さ、高さ、深さを悟ることができるようになり、と祈っています。私たちは、この十字架のイエス・キリストを通して表された神の愛を認識するとき、この道を通って新しい地平線に入っていきます。神の愛は東から西まで、すべてを覆い尽くすほどの——いいえ、それ以上の広さです。それは、十字架の上で大きく広げられた主の御手の広さです。その広げられた御手によって、あなたの罪、あなたの咎、私の罪、私の咎、すべてが担われたのです。神の愛の長さはどれほどでしょう。キリストがあなたのために払ってくださった犠牲と忍耐、その長さは計り知れません。父なる神は、あな

たがご自分のもとに立ち帰るのを、ずっと忍耐強く待つておられます。そして、この神の愛はどれほど高いのでしょうか。天と地との間の高さほどこです。イエスは天からこの地に下って来られました。神の御子が人となってくださったほどの高さをもつ愛です。神の愛の深さ、それは、地獄の底にまで届くほどの深さです。イエスは十字架にかけられ、墓に葬られ、陰府に下り、三日目によみがえってくださいました。ハレルヤ。

イエスこそが、新しい地平線に入るための「道」です。「わたしが道である」とおっしゃったとおりです。新しい地平線に入るには、燃える炭火である十字架に触れる必要があります。なぜ燃える炭火は「唇」に触れられたのでしょうか。それは、人間の心の中にある汚れを一番よく表しているものが「唇」だからでしょう。私たちの口から出てくる言葉は、心の内を映し出します。だからこそ、まず唇が清められなければならなかったのです。

「新しい地平線の民」として生きる

ここで三つ目のポイントをお話しします。私たちは皆、「新しい地平線の民」として生きる者となる必要があります。新しい地平線の民とは、神の恵みのゆえに新しく生まれ変わったクリスチャンであり、主によって生き方を変えられた人たちです。もう、古い生き方にとどまっているのではなく、新しい地平線に入って生きる者です。片方の足は古い生き方に残り、もう片方の足だけを新しい地平線に突っ込んで、両方を股にかけて生きることはできません。時に世の誘惑は私たちを引き戻し、古い生き方に足を突っ込ませようとします。新しい地平線の民とは、常に聖い生き方を求めて歩む人、聖潔を渴望し、主の前に自分を献げ続ける人です。今日は新しい兵士が入隊しました。救世軍の兵士は、神の恵みによって救われ、その救いを他の人に証しし、仕えるために救われた者たちです。主が望まれるところで喜んで仕え、多くの人に感化を及ぼし、周りの人々の人生に影響を与える者です。私は、そのような方向へと主が私たちを導こうとしておられると信じています。

「だれを遣わそうか」——召命と従順の証し
イザヤは神の声を聞き、「誰を遣わすべきか。誰が我々に代わって行くだろうか。」(イザヤ六八) この問いかけに答えるのが、新しい地平線の民です。イザヤは答えました。「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください。」

ここから、最初にお話しした私自身の証言の続きに戻ります。父は、家を継がせるために、私を都会の大学に送り出してくれました。大学一年の時、主は私に問いかけられました。「あなたは、あなたの家族以上に、わたしを愛するか。」復活の主イエスが、ペトロに対して、「この人たち以上に、わたしを愛するか」と問われたのと同じ問いでした。救世軍の青年集会で、私は恵の座にひざまずき、「愛する主よ、私は家族を愛する以上に、あなたを愛します」と祈りました。しかし同時に、「でも、救世軍の士官にはなりたくありません」とも言いました。士官になれば、父ががっかりさせることがわかっていました。そこで私は、兵士として小隊でできる限りのことをします、と祈りまし

た。私はユースリーダーやP曹長、小隊の書記も務めました。訪問のための車の運転もしました。また、救世軍の小学校や中学校でも教えました。父ががっかりさせたくない一心で、二年間その状態でした。やがて私は、神を疑うところまで来てしまいました。「こんなに兵士としてがんばっているのに、なぜ神はなおも士官への召しを語り続けられるのだろうか。あなたを愛すると言ったけれど、私は父のことも愛しているのに。」そう思っ

た。私はユースリーダーやP曹長、小隊の書記も務めました。訪問のための車の運転もしました。また、救世軍の小学校や中学校でも教えました。父ががっかりさせたくない一心で、二年間その状態でした。やがて私は、神を疑うところまで来てしまいました。「こんなに兵士としてがんばっているのに、なぜ神はなおも士官への召しを語り続けられるのだろうか。あなたを愛すると言ったけれど、私は父のことも愛しているのに。」そう思っ

た。私はユースリーダーやP曹長、小隊の書記も務めました。訪問のための車の運転もしました。また、救世軍の小学校や中学校でも教えました。父ががっかりさせたくない一心で、二年間その状態でした。やがて私は、神を疑うところまで来てしまいました。「こんなに兵士としてがんばっているのに、なぜ神はなおも士官への召しを語り続けられるのだろうか。あなたを愛すると言ったけれど、私は父のことも愛しているのに。」そう思っ

た。私はユースリーダーやP曹長、小隊の書記も務めました。訪問のための車の運転もしました。また、救世軍の小学校や中学校でも教えました。父ががっかりさせたくない一心で、二年間その状態でした。やがて私は、神を疑うところまで来てしまいました。「こんなに兵士としてがんばっているのに、なぜ神はなおも士官への召しを語り続けられるのだろうか。あなたを愛すると言ったけれど、私は父のことも愛しているのに。」そう思っ

た。私はユースリーダーやP曹長、小隊の書記も務めました。訪問のための車の運転もしました。また、救世軍の小学校や中学校でも教えました。父ががっかりさせたくない一心で、二年間その状態でした。やがて私は、神を疑うところまで来てしまいました。「こんなに兵士としてがんばっているのに、なぜ神はなおも士官への召しを語り続けられるのだろうか。あなたを愛すると言ったけれど、私は父のことも愛しているのに。」そう思っ

た。私はユースリーダーやP曹長、小隊の書記も務めました。訪問のための車の運転もしました。また、救世軍の小学校や中学校でも教えました。父ががっかりさせたくない一心で、二年間その状態でした。やがて私は、神を疑うところまで来てしまいました。「こんなに兵士としてがんばっているのに、なぜ神はなおも士官への召しを語り続けられるのだろうか。あなたを愛すると言ったけれど、私は父のことも愛しているのに。」そう思っ

た。私はユースリーダーやP曹長、小隊の書記も務めました。訪問のための車の運転もしました。また、救世軍の小学校や中学校でも教えました。父ががっかりさせたくない一心で、二年間その状態でした。やがて私は、神を疑うところまで来てしまいました。「こんなに兵士としてがんばっているのに、なぜ神はなおも士官への召しを語り続けられるのだろうか。あなたを愛すると言ったけれど、私は父のことも愛しているのに。」そう思っ

た。私はユースリーダーやP曹長、小隊の書記も務めました。訪問のための車の運転もしました。また、救世軍の小学校や中学校でも教えました。父ががっかりさせたくない一心で、二年間その状態でした。やがて私は、神を疑うところまで来てしまいました。「こんなに兵士としてがんばっているのに、なぜ神はなおも士官への召しを語り続けられるのだろうか。あなたを愛すると言ったけれど、私は父のことも愛しているのに。」そう思っ

た。私はユースリーダーやP曹長、小隊の書記も務めました。訪問のための車の運転もしました。また、救世軍の小学校や中学校でも教えました。父ががっかりさせたくない一心で、二年間その状態でした。やがて私は、神を疑うところまで来てしまいました。「こんなに兵士としてがんばっているのに、なぜ神はなおも士官への召しを語り続けられるのだろうか。あなたを愛すると言ったけれど、私は父のことも愛しているのに。」そう思っ



万国書記官夫妻を迎えての 130周年記念全国大会 2025年11月21日(金)～23日(日)

救世軍バンドレイジング・チャリティー・コンサート 11月22日(土) 午後2時

日本軍国開戦130周年記念の全国大会は、万国総督リン・ドン・バッキンガム大将と万国女性部会長ブロンウィン・バッキンガム中将を迎える計画でしたが、大将の健康上の緊急事態により、来日が中止されることになりました。大将夫妻に代わり、南太平洋及び東アジア(SPEA)地域万国書記官であるユサク・タンパイ中将とウィディアワティ・タンパイ中将が来日し、この大会を導きました。

●救世軍バンドレイジング・チャリティー・コンサート

大会最初の公開集会であるこのコンサートは、中央区立日本橋公会堂で開催しました。今回、日本最古のアマチュア金管市民バンドの「ザ・バンド・オブ・ザ・ブラック・コルト」(BBC)の皆様に出演いただき、ジャパン・スタッフ・バンド(JSB)とは実に32年ぶりの共演となりました。さらに、シカゴ・スタッフ・バンドの元楽長であり、数多くのブラスバンドや吹奏楽作品を手がけてきたウィリアム・ハイムズ氏を全国大会諸行事と合わせて迎えました。両バンドは、コンサート前にハイムズ氏と複数回のリハーサルを重ね、作品に込められた背景を学びながら、繊細で的確、そして温かい指導を受け、その音楽性と人柄のすばらしさに触れる貴重な機会をもちました。

コンサートの前半はJSBとBBCそれぞれの単独演奏、後半は合同演奏の二部構成で、オープニングはJSBがハイムズ氏の指揮で、自作のマーチ「God of Wonders」を演奏しました。バンドリーダーの石川一由紀少佐の司会で、タンパイ中将ご夫妻と来場者を歓迎した後、BBCの橋本愛香さんによる「キリストにはかえられません」のホルネットソロ、「Faith Walk」を演奏。舞台はBBCに入れ替わり、マーチ「Milestone」

や「Soli Deo Gloria」、引地楽長指揮によるP.グレイラム作曲「Blazon」を演奏。続くワグナーの「エルザの大聖堂への行列」では中間部からJSBもバンド隊(バンド本体とは離れた場所で吹く演奏部隊)として加わり、迫力ある演奏で前半が終了しました。

休憩中はロビーにて、社会鍋、サポート会の募金の案内があり、多くの方がご協力くださり、供給部の販売も賑わいました。後半の合同演奏では、48人のメンバーが舞台いっぱい並び、今年のテーマソング「All That I Am」や大曲「Vitae Aeternum」など演奏。司令官スティーン・モーリス大佐によるショートメッセージでは、チャリティー・コンサートとして多くの方に更なるご支援をお願いする機会を得られたことの感謝が伝えられました。

アンコール曲「情熱大陸」では会衆が手拍子で演奏を楽しみ、ハイムズ氏とメンバーが醸し出す救世軍音楽の力と香りが会場を満ち、130周年にふさわしい充実の演奏会となりました。(来場者300人、音楽部報)



(前ページより)

ぬ」と迫ってきました。私はどうすることもできず、全く無力を感じました。心の中で「主よ、助けてください」と叫ぶと、遠くから一つの手が伸びて降りてくるのが見えました。私はとっさに自分の手を上げ、「主よ、助けてください」と言いました。その手が私の手に触れた時、その手のひらに釘跡が見えました。それはもちろん、イエス様の御手です。イエス様は、私が古い生き方にとどまり続けることを望んでおられないのだと、はつきり悟りました。「確かに父はがつかりするだろう。しかし、御心ならば、私は新しい地平線に踏み入ります」と祈りました。

大学を終えた時、私は父に、「救世軍の士官になりたいのです」と告げました。父は猛反対し、「士官になるなら、この家の敷居を二度とまたぐな」と言い放ちました。その日から二年間、父とは音信不通になりました。しかし、士官学校での一年目の終わり頃、父から受け取った手紙にはこうありました。「わが子よ。私は今、私の初子であるお前を、神の国のために献げる。」父は村で回心し、クリスチャ

ンとなっていたのです。
荒れ野の中の恵み——新しい地平線に立つ決断

荒れ野はあります。問題

もありません。背負わされている重荷もたくさんあります。経済的な困難もあります。しかし、新しい地平線に入るなら、神にはできないことは一つもないということがわかってきます。大会のテーマの御言葉にあるように、神は「荒れ野に道を通らせる」お方です。あなたは、その恵みの中に入りたいと思われるでしょうか。あなた自身がその中に入りたいでしょう。あなたの家族も共にその中に入りたいでしょう。そして、国全体がその新しい地平線に入ることを願うでしょう。イエスはおっしゃいました。「わたしは道である。」

先ほど、「わたしのすべてを、ありのままを献げます」と歌いました。この歌をつくってくださったハイムズ楽長に感謝いたします。私たちは主に、「はい」と応答したいのです。そのとき、あなたは新しい地平線に立っています。神の豊かな祝福がありますように。



万国書記官夫妻を迎えての 130周年記念全国大会

大会聖別会 11月23日(日) 午前10時 日本教育会館9階 喜山倶楽部
大会昼食会 11月23日(日) 午前12時30分 同上

●大会聖別会

晴天に恵まれた日曜日の朝、各地から会場に集った戦友、関係者は笑顔で挨拶を交わしていました。ジャパン・スタッフ・バンド(JSB)アンサンブルによるミュージックタイムに続き、定刻、司会の書記長官西村保大佐補が開会挨拶をし、会衆を歓迎。こうして集まれる恵みを語り、バックingham大将夫妻に代わるゲストの南太平洋及び東アジア(SPEA)地域万国書記官タンパイ中將夫妻を紹介し、夫妻を会場に招きました。JSBアンサンブルの演奏に合わせ、司令官スティーブン・モーリス大佐、軍国女性部長ウエンディ・モーリス大佐の先導でユサク・タンパイ中將とウィディアワティ・タンパイ中將が入場し、会衆は拍手で迎えました。

『救世軍歌集』10番「われらともにちからのかぎり」を一同で歌い賛美し、開会祈祷を天満小隊の関根義行曹長が献げました。各地から集まった子どもたちが参加したキッズ賛美では、「すべてが新しい」をギターとキーボード、カホンの伴奏で歌いました。司令官が歓迎の言葉を述べ、続いてウィディアワティ中將が挨拶をしました。中將は「ハレルヤ！」と三度力強く声をあげ、「この大会は130周年という大きな喜びの時である。過去を振り返るだけでなく、将来に希望をもって進もう。受け継がれてきた信仰のバトンが今、わたしたちの手にある。それを次代へ引き継いでいこう」と語りました。

続いて、ユサク中將の導きで兵士入隊式が執りおこなわれました。6人の新兵士が整列し、信仰の宣言をしました。



- ①キッズ賛美 ②挨拶をするウィディアワティ中將
- ③開会祈祷 関根曹長
- ④兵士入隊式
- ⑤聖書朗読 石田兵士
- ⑥メッセージするユサク中將



一人ひとりを導いた小隊士官にも感謝が表されました。

2025年テーマソング「わたしの未来も」を歌い、献金の時をもちました。ジャパン・スタッフ・ソングスターズが「主のきよけきのちの」を歌い、メッセージへの心備えをしました。石田怜子兵士(泉尾)がイザヤ6:1~13を朗読し、ユサク中將は御言葉に基づいて、自身の証言を交えながら力強くメッセージをしました。(4~6ページ参照) 続く祈りの時を司令官が導き、聖霊の促しに応答して多くの方が恵の座で祈りました。ウエンディ大佐の祈りをもって閉会しました。(会衆335人、ライブ配信視聴80回、恵の座約25人)

●大会昼食会

大会参加者が想定以上の多数となったため、当初の、昼食をとりながら開催、という予定を変更し、会衆は集会会場と別室に分かれてお弁当を食べ、その後会場に再集合しておこなわれました。

集会は、軍国女性部長ウエンディ・モーリス大佐の明るく快活な司会で始められました。大きな拍手で、改めてゲストのタンパイ中將夫妻を歓迎した後、各小隊でそれぞれ練習を重ねてきた19人の女性有志が、見事なタンバリン操練を披露しました。その後、京橋小隊の志村幸子家庭団会計がユーモアたっぷりの前置きの後、歓迎の言葉を述べました。

ウィディアワティ・タンパイ中將は、SPEA地域の紹介と、それぞれの軍国の主だった働きや課題を述べ、「豊かに霊の実を結ぶものとなるように」と語りました。続くフェローシップタイムは軍国女性部書記西村和江大佐補が導



志村家庭団会計による歓迎の言葉

き、タンパイ中將夫妻に関する3択クイズでは夫妻の人となりか垣間見える機会となりました。また、夫妻への日本のお土産贈呈を、テンプルマン・トウエルズ少佐夫妻の二人の子女トビーちゃんとアビーちゃんが着物を着ておこない、会場は笑顔と温かい拍手に包まれました。

終始リラックスした雰囲気での集会が終わると、会衆はタンパイ中將夫妻や音楽ゲストのウィリアム・ハイムズ氏と挨拶したり写真を撮ったり、参加者同士おしゃべりしたりと、全国大会ならではの光景が長く続きました。(参加者234人 女性部報)



万国書記官夫妻を迎えての 130周年記念全国大会

大会賛美集会 11月23日(日)午後3時 山室軍平記念ホール

ユース・ディナー・パーティー 11月23日(日)午後6時 救世軍本営地下1階ホール

●大会賛美集会

大会聖別会を終え、会場を山室軍平記念ホールに移しておこないました。ゲストに単立カナン・プレイズ・チャーチ主任牧師の長沢崇史師を迎え、総勢211人の参加者が与えられ、高らかに主の御名を賛美する時となりました。

東京東海道連隊青少年部書記 樋口潔大尉がゲストの紹介をし、祈りを献げて開会。長沢師のリードで、「ハレルヤ! 主をほめたたえましょう」と会場全体でハレルヤを叫び、「起きよ光を放て」「詩篇100」「主は良いお方」「慕い求めます」など、長沢師作詞・作曲の賛美も含めて、会衆一同で共に賛美をしました。賛美リードには救世軍のユースも加わりました。(賛美チーム コーラス…山谷聖加兵士〈杉並〉、山中藍美さん〈渋谷〉、山中心美さん〈渋谷〉、ベース…永尾晶仁兵士〈仙台〉、ドラム…倉持守職員、キーボード…樋口光世大尉、原田恵氏)そしてメッセージでは、長沢師がマルコによる福音書14章3～9節から「何よりも価値あること」と題して御言葉を取り次ぎました。

「これから、色々なものが入り混じって、何が価値あるものかわからなくなる時代が起こる。この箇所、イエス様に香油を注いだ女性は、何が価値あるものかわかっていた。私もかつてミニストリーの中で、様々な行き詰まりを経験した。その時、主

からの示しがあり、ミニストリーに献身していたと気づかされ、それよりも何よりも私はイエス様がほしい、イエス様とずっといたい、その願いが起こされていった。」

続いて祈りの時をユサク・タンパイ中將が導き、3つの祈禱課題を示しました。1つ目は、あなたの全存在をイエス様に献げる、2つ目は、あなたの人生をイエス様に献げる、3つ目は、日本にいる、まだイエス様を知らない若い人たちのために、また家族や友達のために祈るように招きました。粘り強い招きに応答して、恵の座は祈りに導かれる人で溢れました。祈りの後、去年のテーマソングだった「永遠にあなたと」そして「いのちの光」をブラスバンドアンサンブル(眞鍋勝利 副楽長〈杉並〉、石坂清太郎 楽隊書記〈杉並〉、石川眞 楽隊軍曹〈江東〉)と一緒に賛美しました。老若男女問わず、皆が手を上げ、賛美をしました。すばらしい集会になったことを主に感謝します。

(参加者211人、恵の座25人 青少年部報)



●ユース・ディナー・パーティー

賛美集会の熱気冷めやらぬ中、18時から救世軍本営地下1階ホールでおこなわれました。今回のディナー・パーティーの企画は、装飾からプログラムまですべて青年が担いました。このパーティーの目標は「ボッチ(ひとりぼっち)にならない集会」でした。全国から集い、ユースの集いに初めて参加する青年も、久しぶりに参加する青年もいるなかで、誰一人寂しい思いをすることなく、安心して参加できる場所を目指しました。

司会を西村優基兵士(杉並)、石川望さん(江東)が導き、最初にみんなで食事をしました。今までのユースの集会で見たことのないような素敵な料理の数々に、青年たちはとても喜んでいました。その後ゲームでは、ビンゴの紙にそれぞれに名前を書き、参加者の名前を呼んでいく「名前ビンゴ」をしました。これは食事の時からおこなうことで、ひとりぼっちにならないようにとのアイデアでした。そしてゲームの景品が紹介されると、豪華な景品にみんな大歓声! 大盛り上がりビンゴ大会になりました。最後にウィディアワティ中將がショートメッセージをし、ユサク中將の証言を通して、一人ひとりの青年を励ます時をもちました。

りの青年を励ます時をもちました。

夢のようなパーティーが終了した後も、名残を惜しみ、時間の許す限り交流が続き、またやりたい!との声が聞かれました。祝福された時をもつことができ、支えてくださった方々、そして主に感謝します。

(参加者90人 青少年部報)





兵士入隊への導き

兵士入隊への導き 太田優子

二〇二五年十一月二十三日の大会聖別会で兵士入隊させていただきました。クリスチャン家庭ではなく、神様とは



大会で兵士入隊した皆さん。左端ウェンディ・モーリス大佐の隣から、太田優子兵士(渋谷)、奥山麻夜兵士(名古屋)、奥村慧子兵士(清瀬)、タンパイ中将夫妻をはさんで、田辺勇子兵士(清瀬)、塚原貴代子兵士(桐生)、田村健太兵士(杉並)。右端は司令官スティーブ・モーリス大佐。

無縁に育った私ですが、神様が私を選んでくださり感謝です。

「渋谷小隊の旧会館が、建て替えてなくなってしまうよ。」そう聞いたのは十年ほど前でした。教えてくれたのは、渋谷小隊の大橋さん(旧姓加茂さん)です。学友でもあり職場も同じ彼女と約二十年ぶりに会った時のことでした。

渋谷小隊は、私が結婚式を挙げてもらった思い出の場所です。憧れの教会で結婚式がしたい」という希望を、大橋

さんのお父様(当時の渋谷小隊の小隊長、加茂巖少佐)に快く受け入れていただき、今の夫と何回か渋谷小隊でお話をうかがい、叶えていただきました。

建て替え前の渋谷小隊で初めて聖別会に出席し、それから休み休みですが今日まで連なることができています。

二年ほど前から小隊で月に一回、学び会(信仰基礎編)が開催されるようになり、そこでイエス様のこと、聖書のことを教えていただいています。その中で、神様から背を向けることが聖書での罪だということを知りましたが、私が認識していた罪とは違って、理解するのが難しかったです。私は神様のことを知らずに生きてきて、一般的な犯罪を罪だと思っていたので、私は何も悪いことはしていません、と思っていたからです。それでも学んでいくうちに唯一の神様に従って歩んでいきたいと思ひ、回心の祈りをいたしました。

そしてこの度、小隊士官からお話をいただき兵士入隊を決意させていただきました。信仰生活はまだ始まったばかりですが、今までのすべてが神様のご計画のうちにあつたことであり、神様の豊かな恵みに支えられていると実感感謝し、主をたたえます。

兵士入隊の恵み

杉並小隊 田村健太

私は、今から十年ほど前、ジョン・ウエスレーの生涯について知りました。特に彼の徹底した奉仕や、平等を重んじ、信仰に生きる姿は私の人生に大きな影響を与えました。その中でも印象に残っているのは、三十二万キロメートル以上の宣教旅行を馬でこなし、「世界はわが教区」と述べたことです。聖書をただの書物としてだけではなく、実践の書として活用していた彼の姿を尊敬し、彼は私の模範であり続けています。そうしたこともあって、メソジスト運動には強い関心があり、以前から救世軍については知っていましたが、その働きを知ったのは、被災地でボランティアに入った時でした。

私はこの二年間ほど、大切な人を亡くしたり、計画どおりに物事が運ばなかったり、自分の無力さを嘆いていました。大切な人に福音を正しく伝えられなかった悔しさや、もつと伝えておきたかった自分の気持ちなど様々な負の感情が私の中にありました。しかし、神様は私を悲しみや悔しさに倒れたままにさせることはありませんでした。神様はそうした負の感情を、私の人生の糧としてくださり、その感情の一部は信仰や奉仕への気持ちへと変わっていきました。

そのため、ボランティア活

130周年記念全国大会

●全国士官会

11月21日(金)、午前10時から午後2時から、山室軍平記念ホールでおこないました。午前にはユサク・タンパイ中将が、午後にはウィディアワティ・タンパイ中将がメッセージをし、御言葉から恵みと力を受け、士官としての献身を新たにす時となりました。

動に積極的な救世軍で神様に仕えようと考え、入隊に導かれ、様々な方のサポートもあり、入隊の恵みに与ることができ、感謝しています。私が杉並小隊士官の樋口潔大尉と出会ったのは、二〇一八年の広島県呉市の土砂災害の被災地でした。その頃は、将来同じ教会で礼拝をし、親睦を深めることになるとは思っていませんでしたが、不思議な神様の導きがあって、こうして共に賛美を献げる恵みに与れていることを、神様に感謝しています。

コイノニア・リトリート
2月13日(金) ~ 15日(日)
ゲスト 豊田信行師、かな夫妻 (単立ニューライフクリスト教会牧師夫妻)
会場: 山室軍平カレッジ (YGC)

2月18日
レントに入る

〈ご案内〉
初野戦
1月4日(日)
午後2時30分
東京・上野公園カエルの噴水前

集会報告

召天者合同記念会

2025年10月11日(土) 午後2時 多磨霊園

多磨霊園内の救世軍士官墓所前にて開催しました。雨天となりましたが、多くの方々が集われました。伝道事業部長石川和男少佐の司会で進められ、ジャパン・スタッフ・バンド(JSB)が奏樂をしました。社会福祉部長石川一由紀少佐が開会祈禱を献げ、司令官スティーブン・モーリス大佐が開会の辞を述べ、参列者に主の平安があるよう挨拶しました。2024年10月1日以降の召天者及び納骨者15人の名前を人事・教育部長添田美和少佐が朗読し、先に天に召された方々を偲びました。続いて軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐が代表献花をし、参列者全員が黙禱。JSBが「しずけき河のきしべを」を演奏しました。書記長官西村保大佐補は黙示録21:1~8より「神が人と共に住み、人は神の民となる」と題し、「聖書は、信仰者にはうるわしい天の国が備えられていると約束している。想像もつかなかったことが起きているこの社会にあって、『わたしはすでに世に勝っている』とおっしゃった主イエス様を信じ、復活の主がもう一度来られる時まで、主イエス様と共なる生き方を続ける者でありたい」とメッセージしました。祈禱及び祝禱を司令官が献げました。ご遺族を代表して、故宇賀神季代子大佐補のご次男、宇賀神努さんが挨拶をしました。最後に参列者全員が献花をし、散会しました。(参列者169人)

なお、午前10時30分からは青山霊園立山墓地にて小集会と献花の時、午後1時からは多磨霊園内の社会部墓地にて社会福祉部・医療部の召天者合同記念会がもたれ



ました。社会部墓地での記念会は、社会福祉部長石川一由紀少佐の司会で、恵みの家の引地正樹施設長が召天者名簿朗読をし、婦人寮施設長石川節子少佐が黙示録21:1~4より「涙をぬぐわれる神」と題しメッセージをしました。

ウィリアム・ハイムズ氏による バンド・クリニック



2025年11月24日(月・祝)午後2時より、山室軍平記念ホールを会場に、ウィリアム・ハイムズ楽長の来日の最終企画として、特別バンド・クリニックが開催されました。プロフェッショナルな演奏家も含め、全国から集まったブラスバンド奏者30人が一日限りのモデルバンドとして「ウィリアム・ハイムズスペシャルバンド」を結成し、ハイムズ楽長作曲の作品全6曲を、ご本人の指揮により演

奏しました。演奏前には、ハイムズ楽長より、楽曲誕生の背景や、用いられている救世軍歌の意味、そして、それがどのように作品へと結びついているかを丁寧に解説していただきました。美しい旋律、緻密で情熱的な指揮、そして奏者たちの響きが一体となり、満席となった会場は感動に包まれました。

(総勢87人、うち来場者50人、出演者32人、奉仕者5人)



NEWS!!
NEWS!!

各地のニュース!!

グレイス

●開設 30 周年記念集会

2025年10月2日(木)、司令官スティーブン・モーリス大佐と軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐を迎えて、グレイス 30 周年記念集会がもたれました。

集会の中で永年勤続表彰もあり、30年、25年、20年、10年、5年と、全部で14人の職員に感謝状が授与されました。司令官は詩編 92 編 13～16 節の中から「なおも実を結ぶ」と題し、利用者に接しながら喜びを与えて



ほしい、と職員に向けて日頃の働きへの感謝と奨励をしました。(出席者 44 人)

静清小隊 ●召天者合同記念聖別会

10月26日(日)、今年、連隊女性部書記鈴木真理子



大尉、横浜小隊士官 鈴木智博大尉を迎えました。鈴木大尉夫妻は、静清小隊開戦時の小隊士官でした。

昨年6月のこの会以来、兵士、准兵士、戦友のご家族含め5人が召天され、小隊にとって大きな痛みを覚える一年でした。この方々のご遺族・ご家族も出席されました。(出陣者と共に前列で、着席しておられる方々です。)

召天者名簿には、沼津・静岡・清水そして静清小隊に関係する方々、150人以上のお名前があります。改めて、この方々の信仰により、現在の小隊があることを覚えます。また、遠く大阪や神奈川からの出席者もあり、召天された方々の蒔かれた種が各地で成長していることに感謝する時でもありました。(出席者 35 人)

京橋小隊 ●開戦 120 周年記念集会

10月26日(日)、司令官スティーブン・モーリス大佐と軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐を迎えておこないました。1905年、日本開戦10年に際し大将特使としてレイルトン中将が派遣されました。十年大会の一環として、10月23日に八丁堀屯田小隊開戦式がおこなわれました。それから120周年の記念聖別会は、志村佳夫書記が司会。志村書記は小隊歴史を紹介しつつ開会の言葉を述べ、祈禱を伊藤義路会計が献げました。軍国女性部会長は、これまでの戦友の真実な信仰に感謝し、これからも真実な神に従って、世代を超えて祝福が広がるようにと祝辞を述べました。平本宣広少佐が「山室軍平・母の愛」の紙芝居を、古地図や小隊歴史の写真を交えて読みました。司

令官は詩編 100:1～5より「主の真実^{まこと}は世々に及ぶ」と題し、神の真実によって救われた恵みを覚え、過去120年の間に京橋小隊を通してなされた神の御業^{みわざ}を感謝し、さらに将来に神がなして下さる御業を期待し、一人ひとりが献身を新たにしていこう、とメッセージしました。歴史ある唱歌隊は小谷野みぎわ唱歌隊長の指揮で「主にすがるわれに」を合唱しました。楽隊は鈴木哲也楽長の指揮のもと、新しい求道者も加わり演奏しました。聖別会後は記念愛餐会^{あいさん}で和やかな交わりの時をもちました。小林誠曹長は挨拶と感謝の言葉を述べました。

午後2時からは京橋小隊・月島小隊合同バンドによる記念コンサートがおこなわれました。軍国女性部会長がペトロの手紙 2:5～9よりメッセージをしました。茶話会でも笑顔で歓談の輪が広がりました。

(聖別会 46 人、昼食会 42 人、コンサート 39 人)



聖別会の後で



午後の記念コンサート

京都小隊

●茶道体験 インターン生を迎えて

2025年8月3日(日)、救世軍本営のインターンシップ生マイケル・カンポスさんを迎えて聖別会をおこないました。昼食会後、小南悦子兵士の指導でお抹茶体験の時をもちました。夏の



美しい茶器と夏の和菓子が用意され、とても良いお交わりの時となりました。

カンポスさんは米国出身の大学院生で、7月半ばから8月6日まで、西日本連隊で救世軍の働きを体験しました。



●召天者合同記念会

10月5日(日)、召天者を記念して集われた戦友とご家族と共に聖別会を守りました。西日本連隊長本村大輔少佐が司会、高橋暁子大尉が召天者名簿を朗読し、本村少佐が

ヘブライ11:13~16よりメッセージをしました。



●京都モダン建築祭

11月1日(土)~2日(日)、京都モダン建築祭実行委員会と京都市の共催によるイベントに参加し、パスポート公開として京都小隊には2日間で1,817人が来場、見学されました。2日(日)は公開聖別会として、見学される方も一緒に集会に参加されました。また建物の歴史だけでなく、救世軍やキリスト教についての質問が多くあり、良い交流の機会となりました。



渋谷小隊

●女性サンデー、准兵士宣言

10月19日(日)の女性サンデーは、書記長官西村保大佐補及び軍国女性部書記西村和江大佐補の出陣でした。聖別会は勝笹美香少佐の導きで進められ、席上、西村保大佐補の司式により准兵士宣言の時がもたれました。太田優子さん、田村みち子さんが准兵士として宣言し、会衆一同で歓迎しました。(会衆42人<内Zoom12人>)



午後にはテラスで、心地よい気候の中、女性部集会がおこなわれました。大橋環小隊女性部書記が准兵士になった二人を歓迎し、新准兵士が挨拶と証言をしました。西村



保大佐補が「主にあって互いに認め合う」とショートメッセージした後、勝笹隆少佐の導きで席替えをしながらお交わりトークとティータイムを楽しみました。(18人)

遠軽小隊 ●家庭団例会

11月16日(日)午後12時から、連隊女性部書記石坂奈緒美少佐を迎え、おこないました。クリスマスに備えて、北光学園、家庭学校の子どもたちへのプレゼントに添えるカードを作りました。奈緒美少佐が、施設の働きと子どもたちを取り巻く状況を話し、皆で共有しながら子どもたちの幸せを祈りつつ、カードを手作りすることができました。(6人)



NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

大森小隊

●プレ100年記念「ファミリー寄席」

2025年10月5日(日)午後2時～3時30分、「ファミリー寄席—みんなで笑ってストレス解消—」を、ゴスペル亭パウロさんをお招きしておこないました。共に楽しみ、恵まれました。パウロさんは、古典落語、防災落

語、福音落語「罪赦された女」と「塩狩峠」を熟演され、会衆は感動し、聞き入りました。

初めて来られた方々や、久しぶりの戦友やご家族も出席しました。(23人)



杉並小隊

●献堂30周年記念集会

10月19日(日)、杉並小隊献堂30周年記念聖別会をおこないました。人事・教育部長添田美和少佐、ジャパン・スタッフ・バンド(JSB)が出陣、杉並小隊士官樋口潔大尉の司会で進められ、JSBの演奏、石川一由紀少佐による献堂当時を振り返る証言、歌のグループによる合唱があり、添田美和少佐は「愛する者を鍛えられる目的」(ヘブライ12:1～11)と題して説教をしました。お昼はゲストと共に、献堂30周年記念・誕生昼食会の愛餐の時をもちました。

午後はJSBによる献堂記念コンサートがおこなわれ、30人以上の初めて来られた地域の方々を含めて、110人が集いました。コンサートでは、会衆から飛び入りで指揮者体験をするコーナーがあったり、バンドの演奏に合わせて歌ったり、終始和やかな雰囲気が進められ、初めて参加された方々

も楽しんでいる様子が見られました。小隊がさらに地域に開かれ、用いられていくよう神様からビジョンをいただく時となりました。



聖別会の後で

名古屋小隊

●召天者合同記念会

9月28日(日)に、名古屋小隊出身の八幡小隊士官樋口和光少佐を迎えて、記念聖別会と、八事霊園にある小隊納骨堂前で墓前礼拝をおこないました。

樋口少佐は、在籍当時の思い出を交えて、メッセージを語りました。(聖別会22人、墓前礼拝18人)



●子どもの祝福

11月2日(日)、鈴木雅子少佐出陣の聖別会席上でおこない、鈴木雅子少佐がお祈りしました。



日曜学校教師
奨励サンデー
2月8日

子どもたちの信仰のため
働く教師を覚えて祈りま
しょう

救世軍見解表明

社会道德に対する救世軍の立場 第19回「権力の行使」(2)



救世軍の立場の土台となるもの

(承前) * 権力を適正に用いるには、神と人に対する謙遜な態度が必要である(民数12:3、列王記21:29、マタイ18:4、マルコ10:42~45、フィリピ2:3、ペトロ5:5)。そのような謙遜が欠如する時、権力の運用は、人間の利己的な思いのみに駆り立てられ、その結果、罪深い権利の乱用となる(サムエル記下12章、エレミヤ23:10、ミカ3:9~12、使徒5:1~10)。
* 自分に与えられている権力を用いることに失敗するとしたら、それ自体が悪いことである。なぜなら、権力を放棄すると、自分が責任を負っている人々を傷つけ、搾取される危険にさらすことになるからである(エゼキエル34:8、マタイ9:36)。

実際的な対応

1. 救世軍はその神学と歴史に基づき、苦難の中にある人々、貧しい人々、周辺に追いやられている人々、抑圧されている人々を救助し、正義がおこなわれるために、絶えず機会を捉えようと努めます。
2. 救世軍は、抑圧されている人々が力を取り戻すことができるよう努めます。また、救世軍は、社会や政府レベルでの人材、資力、感化力などを用いて、顧みられず、孤立し、神の愛に気づかない男性、女性、子どもたちの生活改善のために努めます。
3. 救世軍は、人々が神から与えられている能力を見い

- だし、発展させ、享受して、豊かな生活ができるよう手助けします。それは救世軍の伝道の働きと社会的なプログラムの主要な目的でもあります。それは次のようなことの結果として出てきたものです。例えば、集いに共に集うこと、虐待を受けた人々を助けるセンター、子どもたちに教育の機会を提供する学校、傷を癒され、健全な者とされる場を提供するセンターなど。
4. 聖書は、権力の性質とか使用の方法などについて、また、救世軍の考え方などについても教えていますが、聖書の権威を受け入れない多くの人々でも、権力は責任、謙遜、愛、公正をもって用いられるべきであると信じています。そういう人々は権力の乱用に反対する救世軍と共に働く機会を歓迎するのです。
5. 救世軍の万国社会正義委員会のような団体を通して、力のない人々の緊急の必要が世界の指導者たちに伝えられます。国際連合との連携により、救世軍は政策やプログラムに関わる人々と共に、世界中の幾百万もの人々の重荷を軽くし、生活を豊かにすることができます。
6. 救世軍は、人権を守り、実業や政治の世界の腐敗を根絶し、公正な取引を促進し、環境を保全し保護する働きを、支持し、協力します。救世軍は、マイクロクレジット(一般の銀行から融資を受けられない人々を対象とした少額融資制度)、商業、企業などによって、生活費を稼ぐことができない人々の経済的正義の促進のために働きます。
7. 救世軍は、その奉仕を受ける人々、救世軍に属する人々、救世軍のために働く人々、その使命に協調する人々すべてに関わって、その力を賢く、十分に用いることを誓います。

(2011年1月大将によって承認)



〈連載・第36回〉

神の呼びかけ ~神の民となるために~

聖礼典について

解説

(承前) 救世軍以外の友人たちも熟考し助言してくれました。ある委員が投げかけた問いに対して、ジョン・オースティン・ベイカー司教(博士)(Bishop [Dr] John Austin Baker)は、「救世軍が他の教会に準ずるためだけに聖礼典を取り入れるとしたら、それは間違い(大失敗)となると思う」と答えました。もし「他の教会のようになるためだけに」やろうとするならば、救世軍は他の教会にはない特色を失うことになります。

会議録によれば、司教はさらに救世軍に提案しています。「他の教会と共通の土台をもっていることをもっと明確にしたほうがよい。救世軍人が自らを聖霊による賜物として洗礼を受けている、とみなしていることに気づいていない教会が多いのだから。」

後に委員会は、この言葉を入隊式の宣誓に取り入れる

ことを提案しました。幼児洗礼を救世軍でおこなうことについては、委員会では一切提案されませんでした。

聖体拝領

聖餐式に関する声明

聖餐式* に対する救世軍としての見解と取り組み方について慎重に考慮した結果、万国霊的生活委員会は以下の点について提示します。

1. 神の恵みは、すべての人に対して、いつでもどこでも自由に、制約なく与えられる。
2. 内的な恵みを得るためには、外的な特別な行為は不要である。
3. 救世軍は、聖霊の一致とは、礼拝における自由な霊の働きにより、多様性と喜びのうちに存在すると信じるものである。
4. 救世軍人が聖餐式を伴う他の教派の集まりに出席し、聖餐に与るか否かを選ぶことができる場合には、主催の教会が許可するならば参加してもよい。

(続く)

* 呼び方は文化や会派によって異なる。また、必ずしも同義ではない。

救世軍公報

転任

山室軍平カレッジ校長及び霊的
生活成長部長の任を解く、オースト
ラリアへ帰国(二〇二六年一月二
日)後、オーストラリア軍国エヴァ
パローズ・カレッジ校長(二月二
日付)の任に就く

ダニエル・テンブルマン・トウ
エルズ少佐

江東小隊士官の任を解く、オース
トラリアへ帰国(二〇二六年一月
二日)後、オーストラリア軍国士
官志願者部付(二月一日付)の任
に就く

メリッサ・テンブルマン・トウ
エルズ少佐

二〇二五年十月十五日発令

任命(カッコ内は継続任命)

補(兼)山室軍平カレッジ校長
(代理)(人事・教育部長、(兼)教育
部長)

添田美和少佐

補(兼)霊的生活成長部長(軍国
女性部会長)

ウエンディ・モーリス大佐

*江東小隊は東京東海連隊管轄

二〇二五年十二月二十九日付

二〇二五年十二月五日発令

新辞令

本宮財産コーディネーター

倉持 徹

二〇二五年十月一日付

二〇二五年九月二十日発令

司令官

ステイブ・モーリス

月島小隊

●召天者合同記念会

9月28日(日)に、西宮
幸治少佐を迎えておこない
ました。月島バンドの伴奏

NEWS!!
NEWS!!
各地のニュース!!

で開会軍歌を歌い、司会の小隊士官平本祐子大尉が召天者名簿を朗読しました。戦友有志で「いつくしみふかき」を合唱しました。西宮少佐はフィリピ3:12~16より、「天国を目指して」と題しメッセージ。パウロの信仰の姿から、「永遠の命という希望を目当てに、天国への途上にある者として、最終的なゴールを目指して日々、生活の中でイエス様によって心を変えられていく経験を重ね、信仰の歩みを全うしよう」と語りました。

聖別会后、昼食会は加藤信一楽隊員の司会でそれぞれに召天者の思い出を語り、和やかな恵みの時をもちました。(会衆23人)



●ファミリーバザー

11月15日(土)に、ご近所の託児所さんと共催で、ファミリーバザーをおこないました。天候にも恵まれ、祝福された時となりました。お子様連れのご家族やご近所の方々が来場され、盛況でした。託児所の先生方と、小隊の戦友が共に協力して働くことができ、感謝でした。(来場者約150人、スタッフ12人)



社会鍋による支援
名古屋小隊

2025年11月18日(火)、各務原市にある岐阜ダルクの就労継続支援B型事業所「そらまめ」を訪問しました。社会鍋より、農作業で使う種まき機の費用の一部を支援しました。「そらまめ」

は2023年に開所し、農作業とお弁当作りをしています。現在は、お弁当の配達もおこなっています。



2月・スチュワードシップ月間

「管理者に要求されるのは忠実であることです。」
(コリントの信徒への手紙一 4章2節)

兵士献身サンデー 2月1日

能登半島地震被災地のための祈り

2024年1月1日の大地震、同年9月の水害による大きな被害を経験した能登地域を覚え、今年も1月1日にお祈りください。

- ① 被災地の一日も早い復興を
- ② 被災された方々の平安のために
- ③ 支援活動をしている方々への守りと導きがありますように
- ④ 被災地域にある教会の牧師、信徒の方々が守られますように

創立者 ウィリアム・ブリス 大将 リンドン・バッキンガム (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 スティーブン・モリス (救世軍本営 東京都千代田区)

https://www.salvationarmy.or.jp



130周年記念全国大会 2025年11月22、23日



(取扱支部)

発行日及び定価

発行日 福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行

定価 福音版・一部 四〇円

広報版・一部 一〇〇円

クリスマス特集号 (十二月一日号)

一部 一〇〇円

振替・〇〇一八〇五四四〇〇

発行兼 救世軍

印刷人 代表者スティーブン・モリス

編集人 山谷 真

〒101-0051 東京都千代田区

印刷所 救世軍本営

電話 東京(03)三三七〇八八一

発行人 救世軍本営

印刷所 有価会社コーチ印刷